

# 第3学年 沖縄ワークキャンプ



※今回は第4学年による発表のため、情報は2023年度のもの

## 事前学習

### コース別FWに向けた学習

現地のガイドの方とのZoomを通し、RQ（リサーチクエスト）に対して仮の答えを立てた。現地調査の基盤となる知識を得られた。

### 学年として成長するために

スマートフォンの使用などに関し、ルールとマナーについて学年全体で議論。WC委員会による啓発動画の作成。



啓発動画の様子



学年全員で協力し、千羽鶴も作成

## WC中の学習

### 1日目 ～平和学習～

ひめゆりの塔・ガマ・平和祈念公園・沖縄県平和祈念資料館に訪れ、平和学習を行った。歴史の授業で考えた平和の定義などについて絡めながら体験をし、理解を深められた。現地で見学・体験したからこそ、戦時中の状況を想像し、当時の人々に思いをはせることができた。

### 2日目 ～コース別FW～（4つのコースに分かれ、RQ（リサーチクエスト）について考える活動）

#### マングローブコース「マングローブの変化から見るこれからの世界は？」

カヤック体験やマングローブの観察を通し、マングローブ林が包含する生態系について知るとともに、厳しい破壊の現状とそれに対する取り組みについて知ることができた。

#### 平和コース「全員にとっての平和とは何か？」

米軍基地への訪問、そして現地の大学生とのディスカッションを通し、基地受け入れに対する生の声を聞き、現状の理解が深まった。

### 3日目 ～民泊体験～

4～6人程度の班に分かれ、1日を現地の家族と過ごした。家族の一員のように迎えていただき、三線などの沖縄特有の文化に接したり、沖縄そばをはじめとする食文化を体験したりと、充実した時間を過ごすことができた。家庭ごとに生活や体験にユニークな点があり、後日、体験を共有し合った。

### 4日目 ～別れ、そして最後の観光～

朝は民泊の家族とお別れ。どのグループもかけがえのない思い出と絆を作ったため、別れの際に涙を流す人は少なくなかった。その後は首里城へ向かい、美しい建造物、そして火災からの復建の進捗を目の当たりにした。国際通りで自由時間もおり、チームごとに立ててきたプランをもとに、計画的に行動。市場や沖縄ならではの飲食店で昼食をいただいたり、お土産の購入をして、最後まで満喫しきった。

#### 海コース「私たちに海は守れるのか？」

海やその周辺の散策、そして現地校との交流を通し、海の生物多様性、そしてサンゴの白化の課題についての理解が深まった。

#### 国際コース「国や地域を超えた関係作りには何が必要か？」

米軍基地周辺の散策や米兵の方とのディスカッションを通し、自国民と米兵の距離感を感じると同時に、住民と米軍基地の、切り離せない関係について理解できた。



ガマ体験の様子



海へ行き、他グループとも交流



あつという間の4日間にお別れ

## 事後学習

### コース別FWの振り返り

事前学習と現地での学習の内容を振り返りつつ、新たに調査も加え、RQに対する答えをまとめた。考えの変化、そして深化を感じられた。

### ポスター発表

保護者や下級生に対し、学んだことをポスターにまとめ、発表した。他グループの発表で新たな発見も得られた。

## 得られたもの

### 国際理解の視点から

#### ～沖縄における文化の多様性～

まず何といても琉球王国の時代から伝わる沖縄の伝統に多く触れることができた。沖縄そばをいただいた他、エイサーを鑑賞したり、民泊の方に様々な体験をさせていただいた。国内での文化の違いを尊重する姿勢を身につけられた他、国内におけるさらなる文化の発見に対する興味が増した。また、米軍基地が多いからこそ国際色が濃く、沖縄の歴史と米国の文化の融合が見られた。例えば、タコライスの発祥が沖縄であったり、米兵の軍服が基地周辺で売られていたことが印象的である。文化の融合により新たな価値が生まれる一方で、言語や価値観の壁など、課題についても学ぶ機会となった。

### 人間理解の視点から

#### ～様々な人生に触れて～

沖縄に住んでいる方の最も大きな印象は、寛容であるということである。隔離された島でありながらも、かつては交易の要として栄え、さらに現代においては米軍基地を抱えており、異文化へ寛容する心があると感じた。民泊では、異郷の私たちを全力で迎え入れてくれ、家族のようにもなしてくれた。東京では容易に体験しえない、サラダポット社会を体験することができた。その中で、様々な立場の人と接し、多種多様な生き様を目の当たりにすることができた。今日も、全員が違った「今日」を迎える。様々な人の「今日」を知り、社会の中での自分のあり方について考えられた。

### 理数探究の視点から

#### ～現地調査の重要性～

事前学習では数値などの情報を扱ったが、そこから得られるものは限られており、現地で見たりして初めてわかるものは多かった。例えば、マングローブは葉に塩をためて落とすことがあることから、黄色い葉はしょっぱいということを学んだ。しかし、その程度は分からず、現地で葉を噛んでみて初めて「これくらいしょっぱいのか」ということを理解できた。数値や文字だけではわからない、感覚も使った、現地調査の重要性を実感した。



マングローブの葉を食べている様子。多くの人が、思っていたよりは塩味が薄い、と述べていた印象である。

### 全体を通して

#### ～人として、学年として成長～

普段の生活から遠く離れた土地で集団生活を送る中、思いやりを身につけられた。事前学習の段階から、「最高のWC」を目指すために学年で考え続けた。結局、大部分が各個人の判断に委ねられた中で、他者の意見を重んじ、思いやる力がついたと考える。特に象徴的だったのは、合唱の練習時、自然と肩を組み始め、最終的に学年が一つの大きな輪になった出来事である。学年の絆が強まったことを実感した。



## ATLスキルとの関連性

### コミュニケーションスキル

沖縄現地では、1日目の平和学習、コース別FW、そして民泊体験でも現地の方の意見を積極的に聞くことが出来、コミュニケーションスキルの上達を誰もが実感した。

#### 平和コース

基地問題について大学生とディスカッション

#### 国際コース

米兵の方と基地の隣のバーで会話

#### 海コース

サンゴ白化の現状を現地の方から学ぶ

#### マングローブコース

保全活動について現地の方から学ぶ

### 批判的思考スキル

約半年間も行ってきた事前学習でたくさんの知識を得て、沖縄を知り尽くしているかのような気持ちWCに臨んだ。→しかし、自分たちが想像していたものとは全く違う景色が広がっていた。Ex.)現地の人は方言に対してタブーな意識を持っていない。基地は怖くない、残してほしいという意見 など…→メディアからしか情報を手に入れられないことの怖さを知り、普段手に入れる情報も批判的な視点を持つ事が大事だと身をもって感じられた。

私たちが思っていた「沖縄」というものは、バイアスが自然と掛かっていた事に気がついた。→現地に足を運ぶことの大切さと同時に、自分が自然と持っている知識や見方に対しても批判的になる事の重要性を学んだ。

### 協働スキル

沖縄WCでは、学年としての活動や国際通りでの班行動など、団体での活動が多かった。→その結果、学年全体の仲を深めるいい機会になった。先述の通り、学年として成長できたのは大きな収穫である。また、民泊では、現地の方の家に泊まらせていただき、共に2日間を過ごした。そこでも、お互いにリスペクトを忘れずに過ごすことが出来た。→他者と協力して行動する力を身につけた。



朝の散歩の様子